



▲下高瀬簡易郵便局



▲吹き抜けと天窓



▲エンタシス状の柱

下高瀬簡易郵便局(旧丸岡呉服店) ～今でも現役で働く文化財～

下高瀬簡易郵便局は、三野町下高瀬に所在し、登録有形文化財に指定されています。建物は元々、丸岡呉服店(屋号ヤマヤ)として昭和10年(1935年)に建てられ、昭和25年(1950年)9月からは簡易郵便局として使用され、現在に至っています。

建物は木造モルタル造りの2階建てで、4本のエンタシス状の丸柱で支えられています。エンタシスとは上下はともに細く、中央がやや膨らんだ形をしているものを指します。局内部をみると、中央に吹き抜けのギャラリーを設け、その上部には天窓がつけられています。そのため、自然の光だけで十分な明るさを確保できるようになっています。

局内のタイル敷きの床面や白壁の天井は建設当

時のままです。建設されて70年以上経つにもかかわらず、床にはほとんどひび割れがなく、白壁もほとんど色あせていない光景をみると、建設当時の技術の高さをうかがうことができます。

局内には当時の応接室も残されています。壁と天井は白壁で造られ、天井が大変高い構造になっているためか、広い面積ではないにもかかわらず、入る人に圧迫感を与えず、広々とした空間を感じさせます。この応接室もほとんど当時の状態を維持しています。

下高瀬簡易郵便局は、昭和初期の三野町周辺では極めて珍しい洋風建築であり、重要な文化財であると同時に、今日でも郵便業務を行いながら、地元の人々の生活を支えています。

<生涯学習課>

今月の市民力

15台もの太鼓台(ちょうさ)が一同に集結して、迫力満点のかきくらべを見ることができる「とよなか秋のまつり」。今年で7回目を迎えたこの祭りを影で支えているのが実行委員会の皆さん。もともとは、ちょうさが好きで好きでたまらない地元の有志が集まって作った祭りです。自分たちでポスターを作って配布したり、当日の準備・進行も、各太鼓台から手伝いを出してもらったりしてみんなで運営。

金糸銀糸の刺繍を施した高さ約5m、重さ約2~3tものちょうさを、100人余りの若い衆が頭上高く差し上げるさまは圧巻です。

